
理由（わけ）

AQUARIZM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理由^{わけ}

【Nコード】

N3887I

【作者名】

AQUARIZM

【あらすじ】

女子高生の自殺から始まる色々な出来事、なぜ、彼女は自殺しな
くてはならなかったのか？
出合いが出会いを呼び、理由を求めて行く。

すべての始まり（前書き）

あなたの周りに起こるすべての出来事に・・・答えはありますか？

すべての始まり

ある日のNEWS、同時刻に4人の女子高生が自殺をした。それも違う地域で。女子高生には一切のつながりは見れず。関連性は見えなかった。

警察は事件と自殺の両面で捜索を行う方針だと言う。

そのNEWSが報じられる1時間前……。その亡くなった生徒の担任：佐々木 勇蔵は

教育委員会や校長、両親、そして警察とのやり取りに追われていた。校長室に呼ばれた際、こう言われた

校長「佐々木先生、大変な事になったね。辛いと思うが誠実に頼むよ。マスコミと教育委員会との調整は私が行うから、何か分かったらすぐに伝えてくれ。くれぐれも発言いは気をつけてくれ」

佐々木「はい、宜しくお願いします。」

戻った職員室で同僚の教師が近寄ってくる。

混線したラジオのような、色んな声が私に降り注いでくる。よく聞き取れない。

何がなんだか、同じ日常が昨日まで続いていたとは思えない。やらなくてはいけない事が、山積みなのに、井上の自殺……。考えて見ただけ、気持ちが悪く落ち込んで来た。

井上か……。最近、暗い気はしたが。普通だったし。

ん……。どうすればいいんだ。こういう時は・

教師A「佐々木先生！4組の生徒が来てますよ！」
佐々木「あつ！はい」

職員室の入口に5人や6人のうちの生徒が泣きながら、立っていた。

裕子「先生、なんで美樹なの・・・」
なだめながら、

佐々木「分かった辛いよな。もう少ししたら、加藤先生に教室に行つて貰うから待ってなさい。」
ふと頭を上げて廊下を見渡すと階段の脇に3年の五十嵐がいた。
あいつ・・・井上と付き合っていたはず。

佐々木「おい！五十嵐 少しいいか！」
こちらを見た五十嵐は、走って下駄箱からそとに出て行ってしまった。

すべてが、積み木のように崩れて行く。逆らいようも無く。
ただ、立ち尽くす俺。

そのあと、生徒をなだめ、教育委員会への説明、父母会との会議、井上の両親との話し合い
警察の事情聴取、マスコミ相手の謝罪会見とこなして行く。

家に帰っても、テレビをつければNEWS番組での報道。
事件性は薄いと報道。

俺の周りで凄い勢いで情報と人の嵐の中で、もみくちゃにされて行く。

その一週間の間、息つく暇も無く。井上の告別式に参列した。
周りの声は、どうして、何があったの言葉が飛び交っている。

私に対して疑い、批判の目、噂も聞こえる。

ただ・・・頭を下げ。「申し訳ありません」と言うしか無かった。

どこにいても、俺に対し、「どうして？何か知ってませんか？どうにかならなかったの？」

声が降り注いで来る。頭がおかしくなりそうだった。

いつもの登校の景色がただ、漠然と過ぎて行く。

その時だった。何かが俺の横をかすり過ぎて行くのが見えた。

佐々木「えっ・・・！痛え〜」

倒れこむと同時に意識が遠のいて行く。

生徒「先生！！先生！！佐々木先生〜！！」

薄れ行く意識の中、目を開けると、銀色の物体の黒い物がクルクルと回り続けている。

ん・・・なんだ・・・？

大きなお面をつけた人が近寄って来る。

「すみません。すみません。誰か・・・救急車を！救急車を・・・」

体のいたる所が痛い。熱い。そして寝むい・・・そして思う「どうして・・・助けてくれ・・・」

薄れゆく意識の中で、井上の声が聞こえた。

「先生・・・フッフ」

痛みと眠気に交互に襲われ、何もできない。時間はゆっくりと流れて行く・・・

「しっかり、しっかり・・・」

誰かが声をかける。誰・・・？うるさい・・・静かにしてくれ。

俺は寝たいんだ。寝たいんだ。

「怪我人搬送中。男性、30歳代。オートバイとの接触事故により、頭部に損傷、出血あり
骨折もあると思われます。」

「ハイ！了解しました。では、西岸病院への搬送願います。こちらから連絡を入れて同じおきます」

「ハイ！了解」

救急車を運転しながら思う。

この付近で最近、事件・事故が多い。この怪我人どこかで見えた気がする。

なんだろう？誰だっけ？思い出せない

この仕事を続けて思う。この人は助かるだろうが。後遺症が出る。もう以前のような生活は送れない。
長年の勘ってやつか？

救急隊員の小島はふと思った。

渋滞の中、サイレンを鳴らし、人の命の儂さを。思いにふける。

西岸病院に着き、患者をストレッチャーで降ろしていた時だった。

俺の手首をグツと握る感触。

小島「えっ！」したを見る。

佐々木「どうして・・・？オジエがナジも・・・？オデは・・・ナジも
なじも・・・」

患者は意識朦朧の中、目を一生懸命開けて俺に問いかけていた。

小島「大丈夫ですよ。今、病院に着きましたから。落ち着いて下さい。
」

救急の処置室に患者を搬送し、担当の医師に患者を引き渡し、症状、状況を伝え。

書類にサインし。消防本部に戻る連絡をした。

帰りの道中、小島は先輩隊員の前川に聞いた。

小島「さっきの患者に、どうしてと言われたんですよ。どう思います？」

前川「よそ見だろ、赤信号を渡ったんだろ？目撃者も言ってたし」

小島「どうして、よそ見したんだと思います？」

前川「気になるのか？まあ、普通に考えれば、考えごとしてたんだろ？」

おい！ブレーキ！！小島良く前見ろ！！

フルブレーキを踏む小島。

前川「お前が事故起こしてどうする！！これだよこれ！考え事してたんだよ」

小島「す・すみません。どうして俺は考えこんだりしてんだろ？」

前川「知るか！それより運転に集中しろ！」

小島「ハイ！すみマセン」

どうして？俺はあの患者の言葉を気にとめているんだろ？疲れているのか？

消防署に戻り、喫煙室に行き、タバコに火つけた。

なんで俺は気になるんだ？なんでタバコを吸っているんだ？

小島「板倉さんはどうしてだと思います？」

隣でタバコを吸っていた上司の板倉に声を掛けた。

板倉「なんだよ唐突に！質問の意味が分からんぞ？何があつた？」

先程の、患者の話をして板倉は

「まあ色々あんだらうよ！悩みとか考え事や誰かの策略とかな。」
小島「策略？策略ね！何が目的ですか？」

板倉「知るか！例えだよ！例え！お前、いつに増して、会話がチンブンカンブンだぞ！」

小島「例えですか・・・。ですよ。CIAやTBCじゃないですもんね。」

板倉「それを言うならFBIだろ！エステか！あはははは！Bしか合ってるね！し、お前行っちゃってるな」

今の俺の頭の中は、タバコの煙のように、曇っている感じだった。

板倉「小島、あと一時間で、勤務終わりだろ。書類を終わらせたらとっとと帰れ！」

車に轢かれたりすんなよ。今だお前の頭を治す治療薬は見つかっていないんだから！」

と言いつつ俺の頭を叩いて、板倉は喫煙室を出て行った。

小島「お疲れ様です。」

悶々としたまま書類を書き、トイレに行き。着替えて。バス停へと向かう。

どうしてか？考えてみても、よそ見をした理由？なぜ、あの時、バイクが接触したのか？

原因があるはずだ。

その時、声をかけて来る2人の女性

2人の女性「お時間ありますか？」

小島「はい？」

一人は小太りの50代の主婦、茶色のカーティガンに灰色の長いスカート

もう一人30代の眼鏡を掛けた樋口加奈子似の女性 ショートカット

トが良く似合っていた。

50代の主婦「この冊子に真実が書かれています。あなたのお悩みも全部、解消してくれますよ。

お話出来ますか？」

宗教の勧誘だ。最近、多いと思っていたが。このタイミング

小島「急いでいるんで、結構です。」

30代の女性「そうですか。では冊子をお読みになって下さい。」
そう言つて俺に冊子を渡した。つい彼女に見とれて貰ってしまった。
そそくさとその場を去り、バス停に向かう。

すると、後ろから低いエンジン音が近付いて来る。

振り返ると俺の乗るつもりバスが来ていた。慌てて走り、バス停
に向かい間一髪、バスに乗れた。

バスの外をぼくっと見ながら、下に目をやるとさつき鞆にねじ込んで冊子に目がいった。

表紙には「理由が・・・」と書いてある。

小島「理由か！」

冊子をパラパラと見る。前世がなんだのかんだの？神は救いに来てくれる。とか書いてある。

さっきの患者も前世の災いで？無い無い！神様？

救急隊員である俺が天使で、医者が神様。そんな感じ？

違うな！問題が起きてから助けても遅いでしょ！痛いし。後遺症なんて残ったら。

その後の人生が大変だろ。

理由ね〜！ん・・・、偶然、たまたま？日ごろの行い？

そんな事を考えていたら、気持ち悪くなってきた。

バスの中での考え事は気持ち悪くなる事は良く分かった。
この揺れはいかん。

すべての始まり（後書き）

まだ、これから書きますよ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3887i/>

理由（わけ）

2011年1月12日16時14分発行